

# 新会長に岡貞行氏が就任 (元水産庁漁港漁場整備部長)



全日本漁港建設協会  
会長 岡 貞行

元水産庁漁港漁場整備部長の岡貞行氏が、全日本漁港建設協会の会長に就任した。五月二十日付の第三十九回理事會において、理事の書面による決議をもって選任されたもの。五月十三日の定時総会において退任した長野章前会長(現協会顧問)の後を受け、漁港建設業の持続的な発展に尽力する。

就任に当たって岡会長は、全日本漁港建設協会とその会員企業である建設業者が、これまで地域社会に対して果たしてきた漁港漁村の発展や活性化、災害復旧などの面での役割の重要性を強調した。一方で、公共事業の減少や担い手不足、設計と実態の乖離といった漁港建設業に由来から残る問題や、水産政策改革、災害の激甚化といった漁港建設業を取り巻く環境の変化による新たな課題の解決に、会員の意見を大切にして積極的に取り組んでいく意向を示した。(岡新会長就任挨拶・六面)

令和二年度定時総会では、冒頭長野会長が挨拶に立ち、漁港建設業界の今後の見通しや協会のあるべき姿について提示した。(長野会長挨拶要旨・二面)

まず全会員六三四社に對して委任状により五六九社の出席があることが確認され、総会の成立が宣言された。次いで理事録署名人として議長が選出された後、令和元年度事業報告、同収支決算、令和二年度事業計画、同収支予算、支部長の交代・理事の辞任に伴う理事選任、常勤役員報酬額承認、借入金の限度額承認の件について審議し、それぞれ原案通り承認、可決した。(令和二年度事業計画・二面)



総会のもよう

その後長野会長から代表理事退任の挨拶、後任である岡貞行副会長代理から理事就任の挨拶があり、閉会した。

## 一般社団法人全日本漁港建設協会 会報

発行所  
一般社団法人  
全日本漁港建設協会  
〒104-0032  
東京都中央区八丁堀3丁目25番10号  
JR八丁堀ビル5階  
電話番号 03(6661)1155(代表)  
FAX番号 03(6661)1166  
http://www.zengyoken.jp/  
発行兼編集人 牧野 稔智

## 令和二年度定時総会を開く

## 新たな「漁港建設業の将来ビジョン」の策定へ

全日本漁港建設協会は、五月十三日午後、東京都中央区の協会本部会議室で令和二年度定時総会を開催した。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の基本方針を踏まえ、役員・会員を招集せず本部事務局内にて開催した。また例年総会議事に先立ち開催する表彰式・総会後に来賓を招いて開催する懇親会については、今年度はそれぞれ中止とされた。総会では、令和元年度事業報告、同収支決算、令和二年度事業計画、同収支予算、支部長の交代・理事の辞任に伴う理事選任、常勤役員報酬額承認、借入金の限度額承認の件を審議、全議案とも原案通り承認・可決した。

### 本部だより

会員の皆様の活動をお寄せください。地域での清掃や藻場の保全、または異業種への参入等といった、会員の皆様が取り組まれている活動などについて、是非本部事務局までお寄せください。協会会報にてご紹介させていただきます。〇本部事務局 〇〇三(六六六)二二五五 info@zengyoken.jp

### 第38回協会表彰受賞者名簿

- ◎表彰規定第6条関係 (特別功労者)
  - ▽佐藤昌良(宮城県支部長)
  - ▽丸本組代表取締役社長
  - ▽町田周一(前東京都支部長、五洋建設(株)顧問)
  - ▽長谷川明正(宮崎県支部長)
  - ▽長谷川組代表取締役社長
  - ▽寺本保晴(元千葉県支部長、新総建設(株)取締役)
  - ▽米盛庄一郎(鹿児島県支部長、米盛建設(株)代表取締役社長)
  - ▽井上一弘(前徳島県支部監事、井上建設(株)代表取締役会長)
  - ▽呉屋明(沖縄県支部理事)
  - ▽呉屋組代表取締役
  - ▽中島英雄(神奈川県支部事務局長)
  - ▽高橋光夫(前島根県支部事務局長)
  - ▽野田和彦(宮崎県支部事務局長)
  - ◎表彰規定第4条関係 (優良会員)
    - ▽杉山幹彦(青森、杉山建設工業(株)代表取締役)
    - ▽菊池組(岩手)
    - ▽森宏文(兵庫、(株)森長組代表取締役社長)
    - ▽井木敏晴(鳥取、(株)井木組代表取締役社長)
    - ▽土肥浩一(鳥取、(株)伊藤組鳥取営業所所長)
    - ▽山純一(福岡、(株)本間組執行役員九州支店長)
    - ▽坂本幸二(長崎、(株)坂本組代表取締役)
    - ▽橋元隆典(長崎、(株)ダイコウ建設代表取締役)
    - ▽木島克己(宮崎、(株)不動テトラ宮崎営業所所長)
    - ▽野元健一郎(鹿児島、阿久根建設(株)代表取締役)
    - ▽協栄海士土木(沖縄、(株)丸憲(沖縄))
    - ◎表彰規定第5条関係 (優良従業員)
      - ▽伊東政喜(岩手、大坂建設(株))
      - ▽早坂光浩(岩手、東亜建設工業(株))
      - ▽千葉隆一(宮城、(株)小野良組)
      - ▽太田健一(秋田、(株)加藤組)
      - ▽澤木勝(秋田、(株)清水組)
      - ▽馬場幹雄(福島、(株)堀江工業)
      - ▽立原和幸(茨城、常総開発工業(株))
      - ▽田所弘(茨城、(株)秋山工務店)
      - ▽渡邊篤(千葉、(株)大滝工務店)
      - ▽永嶋義人(神奈川、東亜建設工業(株))
      - ▽尾形宏美(東京、前全日本漁港建設協会事務局長代理)
      - ◎表彰規定第6条関係 (優良従業員/事務員)
        - ▽横浜支店、▽土屋功(静岡、青木建設(株))
        - ▽中嶋利明(石川、昭和建設(株))
        - ▽加藤恭浩(鳥根、カナツ技建工業(株))
        - ▽小村隆男(鳥根、(株)金田建設)
        - ▽石田義春(岡山、五洋建設(株))
        - ▽合田達史(山口、(株)高須組)
        - ▽角田稔(山口、井森工業(株))
        - ▽佐藤泰久(愛媛、白石建設工業(株))
        - ▽若原美(愛媛、一若建設(株))
        - ▽松本吉雄(福岡、五幸(株))
        - ▽赤木孝雄(長崎、大坪建設(株))
        - ▽岩崎和人(長崎、(株)長崎西部建設)
        - ▽堤田勝次(長崎、門田建設(株))
        - ▽山口一俊(長崎、(株)西海建設)
        - ▽砂山界一郎(大分、(株)高牟禮建設)
        - ▽藤山信二(大分、(株)菅組)
        - ▽末澤輝一(宮崎、河野建設(株))
        - ▽上村太(鹿児島、(株)森組)
        - ▽花田良一(鹿児島、野村建設工業(株))
        - ▽神里敏朗(沖縄、先嶋建設(株))
        - ▽山城実(沖縄、(株)太名嘉組)

### 第三十七回理事会

協会は、令和二年三月二十三日開催が予定されていた第三十七回理事会を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催とし、同日付で決議を行った。

### 第三十八回理事会

協会は、令和二年四月二十日に開催が予定されていた第三十八回理事会を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催とし、同日付で決議を行った。

### 第三十九回理事会

協会は、令和二年五月十三日に開催が予定されていた第三十九回理事会を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催とし、五月二十日付で決議を行った。

また同様に、第八十八回連

# 令和二年度定時総会

日時 令和二年五月十三日  
午後四時三十分  
場所 全日本漁港建設協会会議室

一、総会
一、開会
一、議長挨拶
一、議長選出
一、議事録署名人の選出
一、議事
報告事項 令和元年度事業報告の件
第一号議案 令和元年度収支決算
第二号議案 並びに財産目録承認の件
第三号議案 令和二年度事業計画承認の件
第四号議案 令和二年度収支予算承認の件
第五号議案 理事選任の件
第六号議案 令和二年度常勤役員報酬額の承認の件
第七号議案 令和二年度借入金限度額の承認の件
一、閉会

## 会長挨拶要旨

### 「新たな将来ビジョン」に則り、 会員と一体となって 漁港建設業界の発展に邁進

#### 令和元年度の成果

令和元年度において当協会は、漁港建設の将来ビジョンの四つの目標である水産基盤整備に関わる予算の確保、漁港整備長期計画の推進、適切な入札契約制度の確立、新技術の開発において、一定の成果を上げてきました。

特に適切な入札契約制度の確立においては、品確法の改正に伴う運用指針の改正が行われました。そして、迅速な災害対応のための防災協定の推進とそれに伴う随意契約など契約事務に関して多くの改善方針が定められました。皆様方の多くの御意見により、流木、埋塞災害の揭示など具体的に運用指針に盛り込まれた事項もありました。

新技術の開発においては、漁港プレキャスト工法研究会の活動を通じて、漁港のプレキャスト工法が推進されました。また、赤潮・貝毒への対策を考える環境維持保全工法研究会を立ち上げ、シンポジウムを開催し、多くの科学技術成果を得ることが出来ました。

しかし、漁港工事の積算における現場との乖離や、新技術を背景とした新しい事業の創設などにおいて、また多くの課題を残しており、引き続き協会員一同の活動を必要としているところです。

#### 今後の大改革の予感

現在、新型コロナウイルス感染拡大において、世界及び我が国の社会経済に大きな変革が進行中です。それに伴い、公共事業及び地方建設業の制度、予算及び実施体制においても大改革が起こることは当然の成り行きです。当協会の中には百年を超す歴史を持つ会員もおり、幾多の震災や戦災の復興を経て、また直近では、東日本大震災を経験し復興に活躍している会員も多数おられます。

このような過去の災禍の時に漁港建設業が体験したのは、日本国の継続と安全保障面からの地方の見直しでした。そして、それに伴う地域の建設業への期待とそれに応えて来た全国協会の連帯と頑張りでした。

いま、この新型コロナウイルスの災禍の克服にあたり、地域の守り手としての漁港建設業の役割は大きくなります。そのためには、常に地域の防災等へ貢献する体制の維持とその活動において生産性向上及び働き方改革をICTや若者・女性技術者の雇用を通じて推進して行く必要があります。新型コロナウイルス災禍後の日本の復活を、地方の再生により推進するために、漁港建設業界自らの大変革も求められています。

#### 新しい漁港建設業の将来ビジョンの策定と新しい体制

建設業の生産性向上と働き方改革とともに養殖環境の整備を含む水産政策改革の推進及び漁港整備長期計画の進捗に伴い、新しい漁港建設業の将来ビジョンの策定が必要となっています。また、新型コロナウイルス災禍の克服後の姿と地方活性化への道筋が求められています。具体的には、ICT活用の推進、若年労働者への魅力ある労働環境の構築及び入札契約制度の改善などを見据えた建設技術体系の改革を進める時期にきています。今、令和二年度を迎え、新しい体制により、会員各社一体となり新たな漁港建設業の将来ビジョンの策定に向けて歩みを進めていくべきであると考えています。

直下の新型コロナウイルスの災禍に対応するとともに、新しい方向性を持った漁港建設業の将来ビジョンを定め、それに則り、当協会は、会員の皆様と一体となって、漁港建設業界の発展に邁進して参ります。今後とも、一般社団法人全日本漁港建設協会へのご支援をお願いするとともに、会員の皆様方の益々の繁栄を祈念申し上げます。

令和二年五月十三日

一般社団法人 全日本漁港建設協会

会長 長野 章

## 令和二年度 事業計画

### 適正な利潤、安全性や 生産性の向上、業務の効率化を目指す

#### 【基本方針】

東日本大震災が発生してから満九ヶ年が経過し、近年も毎年のように各地で大規模災害が頻発している。政府は、防災のための重要インフラ等の機能維持、国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持の観点から、特に緊急に実施すべき対策として、平成三十年十二月十四日に「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」を閣議決定し、令和二年度水産基盤整備事業予算においても防災・

減災、国土強靱化のための緊急対策に係る予算が確保された。更に令和元年六月には、災害時の緊急対応の充実・強化や働き方改革への対応、ICTの活用等による生産性向上を図るための規定が盛り込まれた改正品確法が施行され、令和二年一月には運用指針も改定された。当協会ではこれまでに引き続き、契約・発注等の適正化や新たな施工法の調査研究、「漁港総合情報システム」の活用等により、適正な利潤の確保、安全性や

生産性の向上、業務の効率化に努める。

また、近年は市町村における技術職員の減少・不足に伴い、施設の整備や完成後の維持管理を円滑に行うことが難しくなっている状況が見受けられることから「水産基盤整備・維持管理に係る市町村支援のための連絡協議会」が設置された。漁港漁場関係工事の適切な発注を確保するため、当協会は同協議会会員として必要な支援を推進する。

平成二十七年に策定した目指し、近年の水産基盤整備事業や水産政策改革、さらには新型コロナウイルスを含めた漁港建設業を取り巻く状況の変化に柔軟に対応可能な足腰の強い漁港建設業の形成を図るといったことを方向性として整理する。

策定に向けたスケジュールとしては、協会会長、広報小委員、学識経験者を漁港建設業将来ビジョン策定委員、水産庁や協会運営委員をオブザーバーとして複数回の策定委員会を開催、意見の聴取や取りまとめを行い令和二年度末に最終報告を行うこととする。

このスケジュールに則り、七月三十一日にはウェブ会議サービス「ZOOM」を使って第一回ビジョン策定委員会が開催され、現ビジョンの評価と新ビジョンの構成案について検討が行われる予定。

## 新たな「漁港建設業の 将来ビジョン」の策定へ

全日本漁港建設協会はこの春より、新たな「漁港建設業の将来ビジョン」の策定に取り組む。

現行の「将来ビジョン」は、平成二十七年に策定され、会員はじめ広く関係機関に周知したが、それ以降が国の水産基盤整備や建設業界を取り巻く情勢や環境は大きく変わっている。政策的な変化としては新たな漁港整備長期計画（平成二十九～三十三年度）の策定や、漁業法の七十年ぶりの改正（平成三十年十二月）があった。また水産資源・漁獲量の低迷や災害の増加・激甚化、地球温暖化や漁村の活力低下や市町村の技術者不足といった水産基盤整備を取り巻く環境の変化や、品確法（令和元年六月）及び同運用指針（令和二年一月）の改定、担い手不足にともな

う特定技能外国人の受け入れや、新型コロナウイルス感染症への対応といった建設業界を取り巻く環境の変化があった。こういった大きな変化を反映し、より現状に即した漁港建設業の理念と将来あるべき姿を描き、その実現・持続的発展のための方策を示すものとして、新たに「将来ビジョン」の策定に取り組んでいく。

新たな「将来ビジョン」は、現行ビジョンの四点の目標（①適正な予算、②新たな分野を持つ長期計画、③適正な入札制度、④新たな漁港建設技術）の達成状況の評価と再設定をする他に、漁港建設業の公益的役割にもスポットを当てた目標設定を行う。

策定に当たっては、漁港建設業者の目標・励みとなると同時に、国民から支持と理解が得られるビジョンづくりを

#### 新たな「将来ビジョン」策定のスケジュール

日程 (目安)	会議・作業	内容	
令和2年	7月31日	第1回委員会	現ビジョンの評価と新ビジョンの構成案
	8月～	会員アンケートの実施	必要項目・内容に関するアンケート
	10～11月	第2回委員会	新ビジョン案の提示と意見聴取
	12月	最終案とりまとめ	
令和3年	1月	最終案報告	協会運営委員会にて報告
	3月	最終報告	協会理事会にて報告
	5月	新ビジョン発刊	令和3年度定時総会にて配布

受賞者の喜びの声

地域に根差し、地域社会から信頼を受ける 会社を目指して

金野 辰雄

平成二十三年三月十一日、マグニチュード9.0の大地震による大津波は、太平洋沿岸各地に甚大な被害をもたらした。多くの大切な財産と人の命を奪ってしまいました。



臣表彰を賜りましたことは、弊社に取りまして、誠に光栄な励みでもあります。このたびご推薦をいただきました岩手県、全日本漁港建設協会、及び関係各位に心より感謝を申し上げます。

わってきた弊社も多大な損害を被りながらも、全国の漁建協会員の方々の支援を受け、日夜震災からの復旧・復興に邁進してまいりました。

一刻も早く漁業者の生業の再生に向けた工事に従事させていただき、今日に至っております。

この度は、令和二年度漁港漁場関係事業優良請負者として、農林水産大臣表彰を賜りましたことは、長年長崎県の漁港漁場整備工事に携わってまいりました弊社にとって身に余る栄誉であります。

形を利用し、生産量、出荷尾数ともに全国一位を誇っています。沖合では、マアジ、マサバの漁獲量の増加を図る為、広域フロンティア漁場整備事業が行われています。

現在は、平成元年に開港した新長崎漁港において、荷捌き所の高度衛生化の向上を目的とした大規模な改修工事に携わり、岸壁工事では震災時に備え水産流通機能の確保のための耐震化工事を施工しています。

「漁業振興のお手伝いを する」という創業者の思い

壺阪 博昭



この度、令和二年度漁港漁場関係事業優良者として農林水産大臣表彰を賜りましたことは、建設請負業者として研鑽してきた弊社にとって身に余る栄誉であり、大変光栄に存する次第でございます。

型魚礁の鋼製型枠の設計でした。すでに、特許を取得した既存の型枠があり、それに勝る利便性のある型枠を考案せよとの指示でした。夢中で取

型魚礁の鋼製型枠の設計でした。すでに、特許を取得した既存の型枠があり、それに勝る利便性のある型枠を考案せよとの指示でした。夢中で取

また、昭和五十年代後半、赤穂市水産課と協業で鉄鋼スラグを用いた築磯魚礁を坂越湾で建設し、魚の沢山集まる魚礁として評価していただいたこともありました。

それが、今日、創業者の生誕地である家島群島の捨て石で同じ築磯魚礁を建設する機会をいただき、また、その施工技術をこのように評価いただいたことは誠に有難く感謝する次第です。

この名譽ある大臣表彰受賞を契機により一層海洋土木技術の研鑽に努め、地域の「漁業振興のお手伝いをする」の一助となれたいと思っております。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。 礼の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございます。

（株式会社吉田組 代表取締役社長）

水産業の発展とともに 歩む企業として

上滝 満

この度は、令和二年度漁港漁場関係事業優良請負者として、農林水産大臣表彰を賜りましたことは、長年長崎県の漁港漁場整備工事に携わってまいりました弊社にとって身に余る栄誉であります。

め全日本漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

現在、平成元年に開港した新長崎漁港において、荷捌き所の高度衛生化の向上を目的とした大規模な改修工事に携わり、岸壁工事では震災時に備え水産流通機能の確保のための耐震化工事を施工しています。



この度は誠にありがとうございます。 （株式会社佐賀組 代表取締役社長）

この度は誠にありがとうございます。 （株式会社佐賀組 代表取締役社長）

この度は誠にありがとうございます。 （株式会社佐賀組 代表取締役社長）

この度は誠にありがとうございます。 （株式会社佐賀組 代表取締役社長）

令和二年度漁港漁場関係事業 優良請負者表彰

会員十一社が大臣・長官表彰を受賞

- 令和二年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰の受賞者が五月十八日発表され、左記の当協会会員十一名が表彰状を授与された。なお、例年は表彰式が水産庁にて開催されるが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催されなかった。

- 令和二年度漁港漁場関係事業積算基準講習会(東京) 2.8.25
令和二年度漁港漁場関係事業積算基準講習会(神戸) 2.9.3
令和二年度漁港漁場関係事業積算基準講習会(福岡) 2.9.4
九州・沖縄地区連絡協議会 2.10.19

協会の行事予定

- 令和二年度漁港漁場関係事業積算基準講習会(東京) 2.8.25
令和二年度漁港漁場関係事業積算基準講習会(神戸) 2.9.3
令和二年度漁港漁場関係事業積算基準講習会(福岡) 2.9.4
九州・沖縄地区連絡協議会 2.10.19



# 新型コロナウイルス感染拡大防止対応

昨年末に発生が確認された新型コロナウイルスは現在に至るまでに世界的流行を引き起こし、多くの死者・感染者を出すだけでなく社会や経済に大きな影響を及ぼしている。国内においても同様に、四月八日には七都府県に、ついで四月十六日には全国に緊急事態宣言が発令される等、混乱が続いている。

この新型コロナウイルスの感染拡大に際して、全日本漁港建設協会では以下の対応を取った。

## 各種会議の対応

三月十三日の第三十七回理事會、第八十八回運営委員會、第三十八回表彰委員會、四月八日の第三十八回理事會、五月二十日の第三十九回理事會が、それぞれ書面決議による開催とした他、五月十三日の令和二年度定時総会を役員、會員を招集しない形式の縮小開催とした。また、定時総会に先立つ第三十八回表彰式は中止とした。

## アンケート調査の実施

全国の會員企業の新規コロナウイルス感染症への対応状況や要望を把握し、今後の対策検討に活用することを目的とし、アンケート調査を実施した。調査は協会の正會員、感染の予防や拡大防止に備えるため全国的にマスク不足が発生した。これに対応するため本部事務局は不織布マスクを独自に調達し、五月十八日付で全支部署務局に配布した。會議等の人が集まる場での配布や、事務局職員の常用等に活用された。

## 水産庁への要望

五月十八日にアンケート調査の結果について水産庁に説明を行い、感染防止策の充実や事業継続に向けた支援措置等の検討に活用してもらおうと要望した。

## マスクの確保と支部署務局への配布

東京都の外出自粛要請や、全国に発令された緊急事態宣言を受けて、本部事務局においても「三密」の防止や接触機会の削減等の感染拡大防止対策を取った。

具体的な取り組みとして、職員の出社・接触機会を削減するために四月七日よりシフト制のテレワークを、また四月二十一日より通勤時の混雑を避けるための時差出勤を導入した。

また、新ビジョン策定のための打合せをウェブ會議サービス「ZOOM」を活用して行うなど、新たな働き方に向けた取り組みを試行している。

## 働き方改革の試行

テレワーク、時差出勤導入

# 令和二年度漁港漁場関係工事積算基準講習会

## 八・九月に全国四会場で開催

一般社団法人全日本漁港建設協会は、水産庁の後援により、一般社団法人水産土木建設技術センターと共催で令和二年度漁港漁場関係工事積算基準講習会を東京、福岡、神戸、仙台の四会場で開催する。この講習会は水産庁漁港漁場整備部担当官、一般社団法人水産土木建設技術センター並びに一般財団法人経済調査会の担当者を講師に招き、令和二年度から適用される「漁港漁場関係工事積算基準」の改定内容、漁港漁場工事に関する最近の話題や新しい積算方式の動向、最近の市場単価等の動向について講義・解説をして頂くというもので、毎年、會員を始め、

東京会場	
令和2年8月25日(火)	13:00 ~ 17:00
全日通霞が関ビル 8階大会議室 B 千代田区霞が関 3-3-3 TEL: 03-3581-2261	
神戸会場	
令和2年9月3日(木)	13:00 ~ 17:00
三宮研修センター 5階 505 神戸市中央区八幡通 4-2-12 FR IIビル TEL: 078-232-0081	
福岡会場 (申込受付終了)	
令和2年9月4日(金)	13:00 ~ 17:00
福岡県朝日ビル 13~15号室 福岡市博多区博多駅前 2-1-1 福岡朝日ビル地下1階 TEL: 092-431-1260	
仙台会場	
令和2年9月18日(金)	13:00 ~ 17:00
(株)仙都会館 8階会議室 仙台市青葉区中央 2-2-10 TEL: 022-222-4187	

この講習会は「土木施工管理技士会連合会のCPD(継続学習)認定講習会」として実施されています。會員各位の技術者の方々には是非御参加下さい。なお、福岡会場につきましては、お申し込みが定員に達したため、受付を締め切らせていただきます。ご了承ください。また、本年に限りテキストのみの販売も受け付けております。

講習会の申込み方法や詳細等については、協会本部または支部署務局にお問い合わせ下さい。

# 「新型コロナウイルス対策の現状と要望に関するアンケート」

## 調査結果報告

調査は全国の正會員六三五社(五月一日現在)を対象に、新型コロナウイルス感染症への対応状況や要望を把握することを目的として実施した。調査期間は本年五月一日~十三日、回収数は266票(有効回答数:258件)であった。

これまで下請を含む受注者間の協議を行った事例は、有効回答255件のうち約11%の27件となっている。その対応の内容は「一時中止」に関するものが最も多く、次いで「工期の見直し」「請負代金の変更」と続く(図1、2)。

は有効回答199件のうち約89%の176件で適切に措置されているという(図5、6)。

現状実施中の工事の対応方針については、有効回答256件のうち約71%の181件が工事継続の方向と回答している(図7)。

その他自由意見では、具体的な事業継続に関して、「工事中止基準の明確化」「工事中止の場合の支援制度(経費補償や設計変更、部分引き渡し等)の充実・整備」「余裕のある工期の設定や工期の延長」「資金繰り支援のための前払いの積極活用」「感染者発生時の柔軟な対応(労災認定とそれに伴う指名停止の回避)」といった要望があげられている。

また、施工中の工事における感染拡大防止策に関する

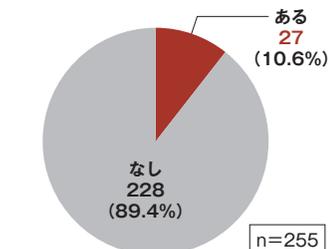


図1 受発注者間での協議事例

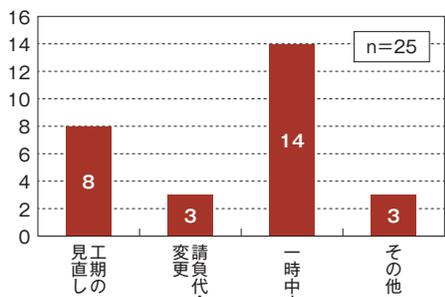


図2 協議の内容

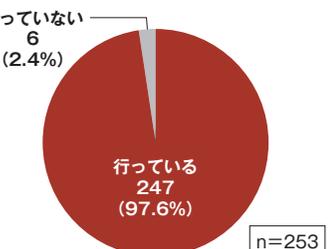


図3 感染拡大防止策の徹底

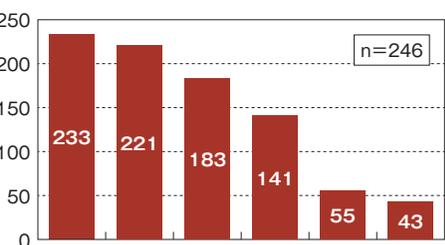


図4 感染拡大防止策の内容

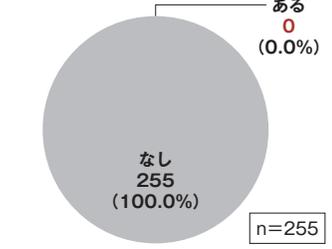


図5 感染者及び濃厚接触者

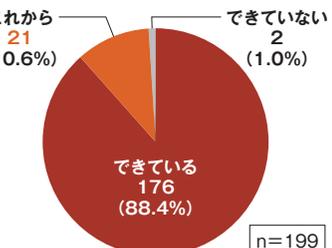


図6 発注者への報告・連絡体制構築等の措置

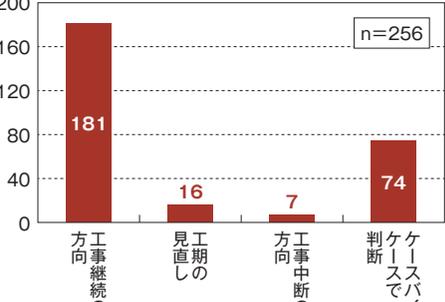


図7 実施中工事の対応方針

# 岡貞行 新会長御挨拶

## 第39回理事会にて就任

このたび、令和二年五月二十日第三十九回理事会において、新会長に任命されました。歴史ある(一社)全日本漁港建設協会に選任いただきまし

たことは大変名誉なことである一方、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。まずは、役員をはじめ会員の皆様への暖かいご支援とご協力を心からお願ひ申し上げます。

本協会は、昭和五十三年の創立以来、広く社会公共のために尽くすという高い志を掲げ、会員の保有する優れた建設技術をもって漁港漁村の健全な発展と活性化に貢献しつつ、郷土の発展とともに成長する漁港建設者の集まりを目指してまいりました。そして坂井名誉会長をはじめとする歴代の大島会長、長野会長を先頭に副会長や支部長等役員の皆様の一一致協力の下、協会の総力を結集して強力な活動を展開し、幾多の課題を克服するなどの成果を上げてまいりました。記憶に残るところでは、東日本大震災の津波被害により、東北三県の漁港漁村は壊滅的被害を受けました。壊滅です。建設資材がない、作業船もない、作業員もいない、そういった絶望的な状況の中、被災しながらも郷土を想う地元漁港建設者の不屈の努力と全国の会員各社からの応援により、無事復旧復興の道を歩むことができました。当時、水産庁で災害復旧担当室長をしていましたが、

域社会との密接な連携交流を図りつつ地域社会への貢献とその期待実現に絶えず努力を重ねてまいりました。私は、当協会創立の精神を引き継ぎ、また、歴代会長や協会役員の皆様のご指導を仰ぎながら、漁港建設業が持つ公益的役割の国民理解増進と水産業の競争力強化、海域の生産力向上、漁業地域の防災対策や活性化、沿岸域の監視など国土保全に貢献するため、漁港建設業が抱える各課題の改善、活動領域の拡大、そのための調査研究や技術開発に積極的に取り組み、漁港建設業の健全な発展と社会的地位の向上に全力を注いでまいります。会員の皆様のご支援とご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

令和二年五月二十日  
一般社団法人  
全日本漁港建設協会  
会長 岡 貞行

- 岡新会長経歴**
- ◇1959年 大阪府生まれ
  - ◇1984年3月 名古屋工業大学土木工学科卒業
  - ◇1984年4月 農林水産省水産庁 入庁
  - ◇2009年4月 水産庁防災漁村課水産施設災害対策室長
  - ◇2012年10月 国土交通省北海道開発局農業水産部水産課長
  - ◇2014年7月 水産庁漁港整備部整備課長
  - ◇2015年8月 水産庁漁港整備部計画課長
  - ◇2017年1月 水産庁漁港整備部部長
  - ◇2019年3月 農林水産省 退職
  - ◇2019年8月 一般社団法人全日本漁港建設協会副会長代理

# 新任御挨拶

五月十一日付けで全日本漁港建設協会事務局長に就任しました牧野でございます。本来であれば、五月の定時総会などの行事に併せ、皆様方にご挨拶申し上げるところでございますが、新型コロナウイルス対策の影響で定時総会は縮小開催となり、また、県境移動が制限されたため、遅ればせながら、会報にてご挨拶させていただきます。



事務局長 牧野 稔智

本年、三月末、水産庁を退職し当協会にお世話になることとなりました。水産庁在任三十七年、その中でも災害査定官としての経験や、若い時

でございますが、出向先の千葉県銚子漁港での経験が、積算と実態の乖離など、長年の課題の解消に役に立っています。また、本部は皆様方の「よろず相談窓口」であると考えておりますので、漁港漁場に関わるものであれば何なりと、ご連絡いただければ一生懸命取り組みさせていただきます。

- 協会の人事異動**
- 東京支部 町田周一
  - ▽退任(支部長) 中村俊智
  - ▽就任(支部長)
  - 沖縄支部
  - ▽退任(事務局長) 永山勉
  - ▽就任(事務局長) 島袋均
  - 四月二十一日付
  - 石川支部
  - ▽退任(事務局長) 岩崎正二
  - ▽就任(事務局長) 長大茂樹
  - 五月十一日付
  - 本部
  - ▽就任(事務局長) 牧野稔智
  - 五月十三日付
  - 本部
  - ▽退任(会長) 長野 章
  - 五月二十日付
  - 本部
  - ▽就任(会長) 岡 貞行
  - 青森支部
  - ▽就任(専務理事) 山田 泉
  - 支部事務局住所の変更
  - 宮崎支部
  - 千八八〇一〇八〇四
  - 宮崎市宮田町十一番三十二号
  - 宮崎ひなた会館五階
  - ※ビル名のみの変更

# 長野前会長御挨拶

## 令和二年度定時総会にて退任

令和二年五月十三日の令和二年度定時総会により、このたび、わたくし、長野章は、一般社団法人全日本漁港建設協会代表理事及び会長を退任いたしました。会長の退任にあたりご挨拶申し上げます。

思い起こせば、平成二十三年五月十二日に東日本大震災直後の総会と理事会により会長に就任致しました。その時の挨拶では、福沢諭吉の「一身にして二生を經るがごとし」を掲げて「三生を經る」として、水産庁、大学教授として業界の代表者となる決意を語ったものでした。それから9年が経ち、今、国難と言われる新型コロナウイルスの大災害の常襲化にあたり、地域の守り手としての漁港建設業の役割は大きく

後任の岡貞行新会長は、わたくしと同じような経歴を積んでいきます。しかし、その実績と組織の統率力及び指導力においては、抜きん出た能力を持っておられます。これからの当協会の発展を約束できる人物であると確信しているところです。

これからは、三生の次の一身にして四生目を過ごすことになりませんが、全国の漁港漁村漁場として漁港の建設業界に少しでも役に立つことをおこなって、全国の漁港建設業の発展に少しでも貢献できればと思っています。



前会長 長野 章氏

そのためには、新しい体制に伴う漁港建設業の将来ビジョンの策定が求め

最後に、この九年間、何とか全日本漁港建設協会会長を務めることが出来たのは、全国の会員の皆様方のおかげであると感謝いたしております。

令和二年七月 長野 章